



里山のジェットコースター「落ち葉ソリ滑り」



2024 Dec.-2025 Feb.

平岡の自然教育の今

Report on nature education at Hiraoka Kindergarten

平岡幼稚園では、本誌の出版活動も含めさまざまな形式で自然教育を行っています。このレポートでは、親子自然観察会、生物の調査活動、広報・啓発活動などを中心にお伝えします。

1

里山をよみがえらせる会×平岡幼稚園
冬の里山観察会
● 2025年2月9日(日) 10:00～12:00

2025年2月9日、平塚市土屋にある「里山体験フィールド」(市民団体「里山をよみがえらせる会」が管理)にお邪魔させていただき、冬の生きものの観察会を行いました。この場所は、クヌギやコナラの二次林、豊富な水が湧き出る谷戸など多様な環境が広がり、さまざまな生きものが見られるフィールドです。

時節柄、活動している生きものを見つけることは簡単ではなかったのですが、それでもツチイナゴやコクワガタ、ハサミムシの仲間、ムカデやヤスデの仲間などを見つけることができました。また、上空を滑空するノスリや活発に飛び回るモズなどの鳥類を観察したり、セリやノビルなど食用になる野草を摘んだり、樹林地の斜面では落ち葉のソリ滑りをしたりと、いろいろな里山あそびを楽しむことができました。この観察会の開催に多大なご協力を頂いた里山をよみがえらせる会の皆様、ありがとうございました。



1/越冬中のコクワガタ探し。真冬でも力強く生きる昆虫たちの姿は心に響く体験となったはずだ。2/3、4羽見られたモズ 3・4/セリやノビルなどの山菜摘みを楽しむ子どもたち。里山は貴重な食育の機会も提供してくれる。



左から> 冬枯れの景色の里山の風景。生きものの気配はほとんどしないが、子どもたちにとってはたくさんの魅力が詰まったワンダーランドだ。/水たまりには氷が張っていた/樹林の中には雲梯やブランコなど里山をよみがえらせる会の皆さんの手作り遊具も配置されている。



2

わかば環境ISO(平塚市)
● 市長、教育長より「わかば証書」をいただきました

平塚市では、環境にやさしい学校づくりを推進するために「わかば環境ISO」制度を導入しています。今年度も、本園のジオトープや地域の自然に親しむの活動や本誌の取り組み等々が評価され、2025年2月3日附で平塚市長および平塚市教育長より「わかば証書」をいただいたのでご報告します。

◀緑豊かな園内には、湧水や井戸水が流れる水辺があり、乾湿、明暗など環境の変化に富むことから、多様な生物が見られる。このような環境は、好奇心旺盛な子どもたちにとって、たくさんの驚きや不思議が詰まった恰好の遊び場になる。



鳥をみる楽しさをたくさん味わえました！



こまたん×平岡幼稚園

3 鈴川探鳥会

● 2025年2月11日(祝火) 9:30～11:30

野鳥研究観察グループ「こまたん」の皆さんのご協力のもと、有志の園児親子とともに鈴川周辺で野鳥の観察会を行いました。今年度は鈴川の河床工事の影響もあり、水辺の定番の烏カルガモやアオサギ、カワセミなどが見られませんでした。にもかかわらず27種もの鳥を観察できました。とりわけみんなが興奮したのが、県レッドデータ生物調査報告書2006で絶滅危惧Ⅱ類(非繁殖期)となっているタゲリです。通常は数羽見られればラッキーなのですが、今年度は「こまたん」の皆さんも大喜びの15羽を観察することができました。(平岡の観察会史上最多羽数かも?)

その他、繁殖期のコサギに見られる「飾り羽」を観察したり、セキレイ科3種(ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ)の違いを観察したり、はたまたオスブレイの飛来を見たりと、楽しい散策になりました。

この探鳥会の開催に多大な協力をいただいた「こまたん」の皆様、ありがとうございました。



すばしっこいウスバキトンボを捕獲するため、今年度も園児と教員が協力して、500個体近くのマーキングに成功しました。最多はみずほ先生234個体、次がまゆみ先生161個体、そして、1個体だけが念願だった再捕獲も達成できました。全国では、2022年から通算約8万個体がマーキングされ、この調査の集大成として、今年2月23日に「そうだったのか! ウズラ&トンボに新事実」が放送されました。しかし、これほど多くマーキングしても、残念ながら知られた新知見は僅かだったようです。

運営の方からは、来年度も調査を継続したいとのアナウンスがありました。本園でも引き続き協力をしていきたいと思っております。



こまたん×平岡幼稚園
鈴川探鳥会



- 1 タゲリ
Vanellus vanellus
- 2 ハシボソガラス (里芋を啜える)
Corvus corone
- 3 アオジ
Emberiza spodocephala
- 4 キセキレイ
Motacilla cinerea
- 5 セグロセキレイ
Motacilla grandis
- 6 ハクセキレイ
Motacilla alba lugens
- 7 ムクドリ
Spodiopsar cineraceus
- 8 イソシギ
Actitis hypoleucos
- 9 コサギ
Egretta garzetta
- 10 カワウ
Phalacrocorax carbo
- 11 オオバン
Fulica atra
- 12 ジョウビタキ
Phoenicurus auroreus

- a 望遠鏡を覗くと、遠くにいる鳥も大きく見えるので、普段はいることに気が付かない鳥たちも、う容易に観察することができた。
- b 航空機 V-22 愛称のオスプレイは、タカの仲間「ミサゴ」の英名 Osprey を意味する。
- c 観察中に飛び立ったタゲリ。14羽の飛翔シーンにみんな歓声が上がった。
- d 望遠鏡を観察しつつ、適宜書籍を使って鳥の解説もしていた。
- e 見つけた鳥をリストでチェックする「鳥合わせ」の様子(平岡幼稚園運動場にて)

註) こまたん撮影写真 (1~3、d)

4 ウスバキトンボ全国一斉調査

●NHK『ダーウィンが来た!』の調査に参加

写真1 / 園内では7月~10月ごろまでウスバキトンボがたくさん飛来する。2 / 油性マジックで翅(はね)にマーキングをする様子。3 / 再捕獲した個体(翌日も同じ場所で捕獲された個体)。昨日からこの地に留まっていたことが裏付けられた。





冬の夜の湘南平探検の一コマ

5 冬の夜の湘南平探検

● 2025年1月17日(金) 17:30 ~ 19:30

冬季の夜、湘南平に探検に行っていることについては、本誌冒頭の「四季のコラム」でもふれましたが、今年も有志の園児家族とともにこの時期にしか見られない蛾類の観察に行ってきました。今回は、蛾類研究者の中島秀雄さんと、理科教育専門家の露木和夫さんも一緒です。

集合時間は17時30分。辺りが暗くなりはじめ、冷たい北風で子どもたちも寒さで震えていましたが、それでも真つ暗な林に降り立つと、ひらひらと飛ぶフユシヤク(冬尺蛾)が出迎えてくれました。「こっちゃんも! あっちにも!」「意外とかわいいね♡」と、あちこちの参加者から喜びの声が聞こえてきます。

実はこのフユシヤク、オスとメスでは発見の難易度がまったく異なります。オスは飛び回るで見つけるのは簡単ですが、メスは翅(はね)が短縮(もしくは欠如)しているのでもったく飛びません。また、体のサイズも5mm程度しかないので見つけるのが大変です。みんなで1時間以上かけて丁寧に探し回った結果、なんとかメスを4匹見つけることができました(オスは多数)。

期待していたキリガ(冬夜蛾)の方は不発で、中島さん特製の糖蜜トラップにもまった姿を現してくれませんでした。今回はキリガの好む条件ではなかったのかも知れません。それでも、冬の夜に蛾が飛び交う不思議を体験するには十分な数のフユシヤクを見ることができました。

- 1/ナミスジフユナミシヤクの交尾
- 2/イチモジフユナミシヤク♂
- 3/ウスバフユシヤク♀
- 4/ナミスジフユナミシヤク♀(フユシヤク類のメスは翅が縮小もしくは欠如して飛ぶことができない)



6

平塚市博物館×平岡幼稚園

みんなで調べよう「ひらつかのカマキリ」

● 2025年2月7日（金）～4月6日（日）

平岡幼稚園と平塚市博物館とのコラボ企画「みんなで調べよう ひらつかのカマキリ」の調査結果の概要が、平塚市博物館 1 階寄贈品コーナーにて展示されました。

市民の皆さんが撮影したカマキリ類の写真を送ってもらう方式で行われたこの調査。平塚市内からは、オオカマキリ・カマキリ・コカマキリ・ハラビロカマキリ・外来種ムネアカハラビロカマキリの5種の写真が集まり、大磯町からはもう1種、ヒナカマキリ（大磯町初記録）の写真も集まりました。

本園では、カマキリの見分け方図鑑の制作や、一般向けのガイダンスの講師等を担当し、園児家庭も積極的に参加しました。私たちの活動が、地域のカマキリ目の分布現況の解明に大きな貢献することになりました。

この調査の詳細は、2025年3月に発行される平塚市博物館研究報告「自然と文化48号」に掲載されます。



写真／平塚市博物館の1階寄贈品コーナーに展示されたカマキリ調査の結果。皆さんが送付した写真の一部がパネルになって展示されているほか、全データが種別にマッピングされている。

7

タカネトンボの記録を発表

● 平岡幼稚園と大磯丘陵で得られた記録

湘南地域とその周辺部におけるタカネトンボの分布に関する報告が神奈川昆虫談話会の機関紙「神奈川虫報」214号に掲載されました。この報告には平岡幼稚園内の記録も含まれていますので、簡単にご紹介します。

神奈川県内のタカネトンボは、近年低地部や丘陵地で衰退が進んでいます。湘南地域においてもその姿を見ることが難しくなっているのですが、2024年の夏、大磯丘陵を散策している最中に偶然タカネトンボの新産地を発見しました。農業用の小さな古い溜池でたくさんの羽化殻が見つかったのです。付近では成虫の姿も確認できました。

他方、平岡幼稚園の記録は、園ビオトープへの飛来記録です。複数年にわたり確認されていることから、園の近くに産地がある可能性が高いのですが、未だにどこから来たのかわかっていません。

【文献情報】

堀田佳之介・堀田来佳, 2024. 湘南地域およびその周辺部のタカネトンボの追加記録. 神奈川虫報, (214): 89-90.

写真／大磯丘陵で採集したタカネトンボ。胸部がメタリックグリーンに輝く美麗種だ。この標本は神奈川県立生命の星地球博物館に寄贈した。



8

さがみ自然フォーラム

● 2025年2月6日（木）～11日（祝火）

2025年2月6日～11日に本厚木駅前のアミューあつぎで行われた第24回さがみ自然フォーラムに参加しました。このフォーラムは生物多様性の保全促進を目的とし、県内の学校や市民団体、企業、自治体などが活動発表をしています。本園の微力な活動もその一端として加えていただきました。

本園の展示は、ビオトープの活動から本誌の出版活動など、生物多様性の保全に関する活動を中心にパネルにまとめて掲示しました。それと同時に本誌のバックナンバーの配布も行いました。というのも、本誌は今号で36号となり在庫の保管スペースがだいぶ窮屈になってしまっているのです。今回、大変ご好評をいただき、6日間で500部以上はけたので、保管スペースに少し余裕ができました。まだ在庫はありますので、本誌のバックナンバーをご希望の方は、巻末の「back number（過去号閲覧）」をご参照ください。



左／会場は、アミュー厚木5Fあつぎアートギャラリー。59の団体や学校等が出展。右／平岡幼稚園のブース。本誌の教育コラムを執筆いただいている吉田文雄先生もいらしてくれた。

第19回 心が育つ 幼児教育

吉田先生編 #15 ツグミに誘われて



氷上のルリビタキ

ツグミに誘われて

幸せを運ぶ青い鳥、ルリビタキが今年はなかなか現れない。シメやツグミも見られないので心配していると、山に雪が積もったある朝、職場の二階の窓から何気なく眺めた広いグラウンドの方に、一羽のツグミがいることに気付いた。やっと見れたと嬉しくなって、すぐに双眼鏡を取りに行く。前かがみでスススッと進み、パツと立ち止まって胸を張る仕草が可愛い。まるで子どもたちが遊ぶ「だるまさんが転んだ」のようでも面白く、寒さなど忘れて見入ってしまった。そんなツグミに誘われるように、里山へ散策に出かけることにした。

冬の里山はとても静寂で、透き通った鳥たちの声が響き渡っている。互いにコミュニケーションを交わしながら餌場を探しているようだ。寒い中、林を飛び回る鳥たちに元気をもらい、私の脚も軽くなる。歩を進めていると、ツグミよりもやや小さな鳥が木の实をカリッと割って食べているのを見つけた。とても愛嬌のある鳥、シメだった。氷が張った池の方に目を向けると、青く輝くルリビタキが昆虫を追いかけける躍動のシーンが見られた。ツグミに誘い出されて、ようやく今年もシメ、ルリビタキに出会うことができ、安心した。この頃は気候変動で実りの秋が短くなっているうえ、実のなる樹木が豊富な土地が開発で一変してしまうことも多い。冬鳥たちが少ないのは、冬場の餌の確保に苦労しているからではないだろうか？人も鳥も共存できる環境を維持するために、今私たちは何をすべきなのか考えていきたいものだ。



文・写真 吉田文雄

鹿児島大学卒。元小中学校理科教諭。公立中学校長を最後に定年退職。現在は神奈川県立愛川ふれあいの村学芸員。著書に、『あつぎ自然歳時記』（国書刊行会）、『自然は友だち 春夏編』（神奈川新聞社）などがある。



シメ 太いくちばしが特徴的



エノキの実を啜るツグミ



第16回

知育ゲーム

出題：編集部 画：富岡誠一

この生きものはなんの仲間でしょうか？

- ① アリ
- ② コオロギ
- ③ モグラ

(答えは下の欄)

- **ダウンロード** 平岡幼稚園HPからPDFがダウンロードできます。

- **頒布** 無料で各号ひとり1部に限り、平岡幼稚園にてお渡ししています。(※ 要事前連絡)
ikimono@hiraoka-kg.com もしくは 0463-58-1188(担当:園長)まで

- **配架・所蔵** 以下の施設でも閲覧できます。

【**図書館**】 国立国会図書館(東京本館・関西館)、神奈川県立図書館、横浜市立中央図書館、平塚市中央図書館、平塚市南図書館、相模原市立図書館、茅ヶ崎市立図書館本館、大磯町立図書館、二宮町図書館、藤沢市総合図書館、藤沢市湘南大庭図書館、藤沢市辻堂図書館、横須賀市立中央図書館、座間市立図書館、鎌倉市図書館、横浜女子短期大学図書館、※厚木市立中央図書館、※綾瀬市立図書館、※秦野市立図書館、鶴見大学図書館 ※印は蔵書登録なし

【**博物館等**】 県立生命の星・地球博物館、平塚市博物館、横須賀市自然・人文博物館、相模原市立博物館、あつぎ郷土博物館、大磯町郷土資料館、愛川町郷土資料館、箱根町立郷土資料館、観音崎自然博物館、茅ヶ崎市博物館

【**その他の施設**】 神奈川県自然環境保全センター、神奈川県環境科学センター、県立秦野ビジターセンター、県立愛川ふれあいの村、県立足柄ふれあいの村、秦野市立くずはの家、平塚市子育て支援センター、平塚市環境保全課、平塚市立岡崎公民館、金沢自然公園のものはな館、箱根町立森のふれあい館、はこね・おだわら昆虫館、平塚市立びわ青少年の家、平塚市町内福祉村おかざき鈴の里、うみねこ博物堂、平塚市立土屋霊園、Mushi-sha(むし社)

Back Number

過去号閲覧



湘南自然誌 PDF 版
hiraoka-kg.com/culture/



Publisher

発行元

HIRAOKA Kindergarten

平岡幼稚園



平塚市北部の伊勢原台地南端の麓に位置する我が園には、台地斜面から湧き水が染み出し、元々の表土も多く残されるなど、豊かな自然環境が保存されています。2009年より園地をビオトープにして、周囲に住む多様な生物を呼び込みながら、子どもたちと一緒に地域の自然環境を保全するほか、生物の調査・研究活動も行っています。1967年開園、園地総面積7716㎡。

主な受賞歴

- 2014年 関東・水と緑のネットワーク拠点100選に選定
- 2015年 生物多様性日本アワード 最終選考
- 2019年 かながわ地球環境賞(神奈川県)
- 2020年 日本生態系協会賞(公財・日本生態系協会)
- 2021年 地域環境保全功労者表彰(環境省)



website

Answer

知育ゲーム答え

答えは② コオロギの仲間

この絵の生きものは「手のひらを太陽に」の歌詞でお馴染みのケラ(おけら)です。モグラのような前脚で穴を掘って地中で生活しているため、姿を見る機会は少ないですが、春夏に地中から「ピーー」という音が聴こえたら、ケラの鳴き声かもしれません。



Editor's Note

編集後記

今回、平塚市博物館の野崎学芸員に協力していただくことで、化石をテーマにすることができました。大磯の海岸は時折散策することがありましたが、まさかそのすぐ足元に化石が露出しているとは思いませんでした。みなさんも大磯の海岸に行った際は是非足元に注目して、700万年前の世界に触れてみてください。

今号から「アクションレポート」コーナーを「平岡の自然教育の今」と改名することにしました。図鑑コーナーのデザインも少々変更。より多くの方に本誌に親しんでもらうための試みです。

最後に、生きものの同定などに協力して下さった先生方に感謝申し上げます。(富岡)

COVER STORY

湘南で化石に出会う



化石に触れた瞬間、数百万年の昔へ

かつて湘南は海の底だった…

太古の時代を生きた生物の痕跡を、手のひらで感じに行ってきた。

発行日：2025年3月13日初版第1刷
編集：湘南自然誌編集部 畑田佳之介・富岡誠一

発行：学校法人平岡学園 平岡幼稚園
協力：平岡幼稚園 みんなの会

〒259-1212 神奈川県平塚市岡崎3024
印刷所：株式会社グラフィック

TEL：0463-58-1188